



# 米国株 MARKET PICK UP



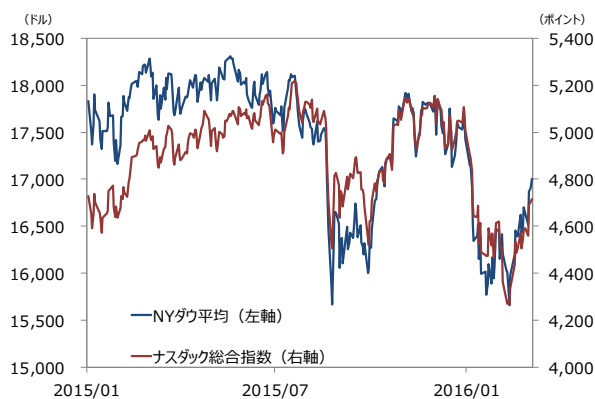
## 先週の米国株式市場—原油価格上昇や経済指標の好転を好感し3週続伸—

	前週終値	2月29日	3月1日	3月2日	3月3日	3月4日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,639.97	16,516.50	16,865.08	16,899.32	16,943.90	17,006.77	+366.80	+2.20%
騰落幅		-123.47	+348.58	+34.24	+44.58	+62.87		
S&P500	1,948.05	1,932.23	1,978.35	1,986.45	1,993.40	1,999.99	+51.94	+2.67%
騰落幅		-15.82	+46.12	+8.10	+6.95	+6.59		
ナスダック総合指数	4,590.47	4,557.95	4,689.60	4,703.42	4,707.42	4,717.02	+126.55	+2.76%
騰落幅		-32.52	+131.65	+13.83	+4.00	+9.60		

### ＜先週の概況＞

先週の米国株式市場で、ダウ平均は週間で400ドル近く上昇し1万7000ドルの節目を回復しました。WTI原油先物価格が36ドル近くまで回復するなど引き続き上昇したほか、ISM景況感指数が製造業・非製造業ともに市場予想を上回ったこと、雇用統計の非農業部門雇用者数も市場予想を大きく上回ったことなどから米国の景気鈍化懸念が後退し、株が買われました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



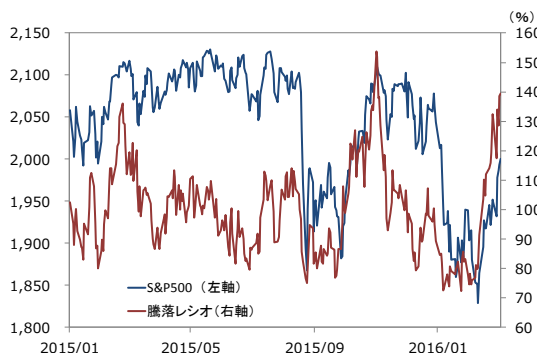
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## 米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.5	2.9	2.8%
S&P500	16.8	2.7	2.3%
ナスダック総合指数	19.9	3.4	1.3%

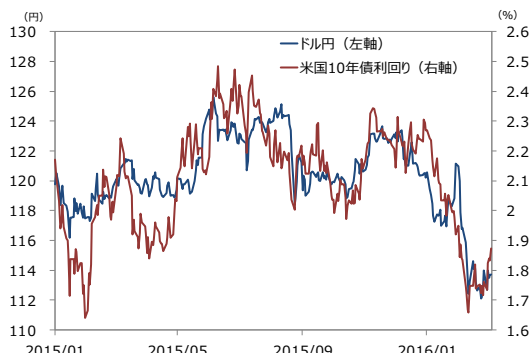
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年3月4日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

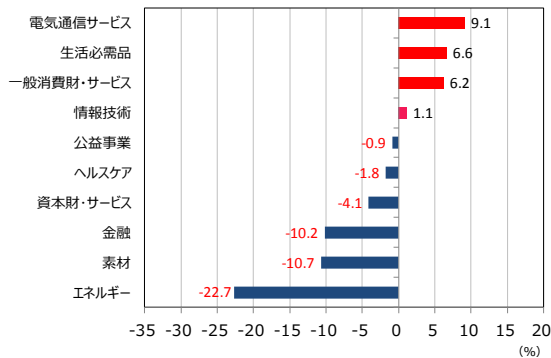
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

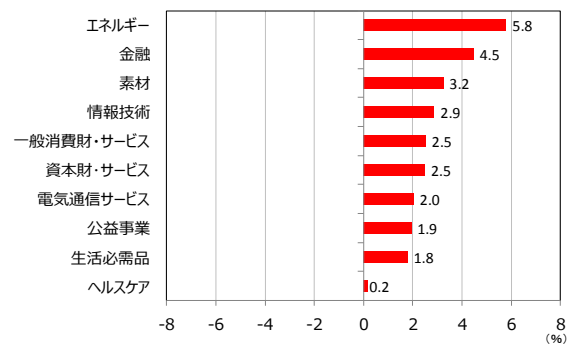
## 業種別リターン

S&P500 業種別昨年来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (2/29-3/4)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CAT	キャタピラー	8.9
AAPL	アップル	6.3
AXP	アメリカン・エクスプレス	5.3
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	4.4
IBM	IBM	4.4
JPM	JPMorgan・チェース・アンド・カンパニー	4.4
CVX	シエラ	4.2
GE	ゼネラル・エレクトリック	3.6
DIS	ウォルト・ディズニー	3.3
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	2.9

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (2/29-3/4)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
NKE	ナイキ	-2.1
PFE	ファイザー	-1.7
UTX	11itekt・テクノロジーズ	-0.7
HD	ホーム・デポ	-0.6

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

### <上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中26銘柄が上昇しました。リスクオフの後退でゴールドマン・サックス(GS)、JPモルガン(JPM)などの金融株が買われたほか、ウォルト・ディズニー(DIS)は投資判断の引き上げが好感されています。

### <下落>

ナイキ(NKE)、ファイザー(PFE)など計4銘柄が下落しました。

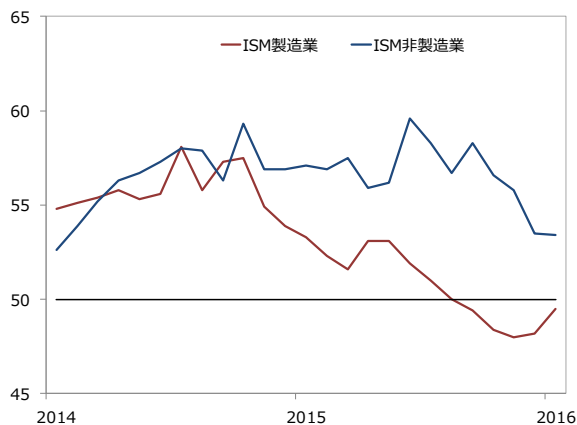
## 先週発表された主な経済指標

ISM 非製造業景況感指数 2月 53.4 市場予想 53.1 前月 53.5

2月のISM非製造業景況感指数は53.4と前月の53.5から小幅に下落したもののほぼ横ばいで市場予想は上回りました。

1月の同指数は前月から大幅に低下し米国の景気後退懸念が高まるきっかけとなっていました。ひとまず2ヶ月連続の大幅悪化は回避したことで過度の悲観が後退する結果となりました。

ISM景況感指数（製造業・非製造業）



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

## 今後発表される主な経済指標

### ECB 政策理事会



マリオ・ドラギ ECB 総裁  
写真は ECB ウェブサイトより

10日にECBの政策理事会が開催されます。ドラギ ECB 総裁は今回の会合での追加金融緩和実施をたびたび示唆しており、市場ではその内容に注目が集まっています。追加金融緩和の内容はマイナス金利幅の拡大（マイナス0.1%→マイナス0.4%）や資産買い入れ額の増額などが予想されています。

12月の追加金融緩和発表時には緩和内容が市場の期待に及ばなかったことから失望売りを呼びこむ結果となっただけに、今回の発表では期待を上回る強烈な内容が発表されるか注目されています。

## マーケットビュー—ECBのポジティブサプライズに期待—

先週のマーケットビューではISM非製造業景況感指数に注目で、ネガティブサプライズとなれば株安要因になる可能性があるとして記しました。結果的には前月から0.1ポイント悪化ながら市場予想は上回るという無難な結果で、マーケットに大きな影響はありませんでした。

今週は米国では目立った経済指標の発表はありませんが、ECB政策理事会の結果発表が注目されます。12月には高い期待を集めながら発表内容が物足りなかったため、株安・ユーロ高のきっかけとなりました。

今回はマイナス金利幅の拡大や買い入れ資産の増額、時間軸の後ずれなどが予想されています。サプライズを起こす手腕に定評のあるドラギECB総裁だけに、続けての失敗はないと期待したいところです。ECBの発表がポジティブサプライズとなれば米国株にも波及して株高となることが予想されます。一方、期待に及ばないとなればダウ平均が3週続伸で1,000ドル以上上昇しているだけに、利益確定売りのきっかけとされそうです。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、[「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」](#)をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会